

【審判上の注意事項】

本大会は、2024年度公益財団法人日本バレーボール協会の定める6人制競技規則による。
但し、別に定める小学生バレーボール競技規則を用いる。

<ルール取り扱いについて>

- 1 児童の善い行いに対しては、フェアプレー精神の育成のため積極的にグリーンカードを出してください
- 2 モップ、チームの荷物等は安全のためにベンチ裏、またはイスの下に置く。スペースが無ければベンチ横でもよい
- 3 靴ひもを結ぶ行為は安全を確保するためなので、特に許可を与えるということではないが結び直しをさせる。但し、執拗に繰り返す場合は遅延行為になる。
- 4 トスは記録席前で試合開始前に行う。トスにはキャプテンが立ち会い、キャプテンマークのついたユニフォームを着用していること。
トスに勝ったチームは、サービスを行うか、サービスをレシーブする権利。または、どちらのコートに入るかを選択する。監督及びチームキャプテンは、公式練習前に記録席で、公式記録用紙にサインすること。なお、チームキャプテンは、試合終了後も速やかに公式記録調子にサインすること。
- 5 公式練習はサブ権を得たチームから行う。公式にエントリーされた選手以外は公式練習に参加できない
- 6 サービスは、セットの始めにチームごとに決められた順序に従って打つ。間違いがないよう、ベンチスタッフも十分注意すること。
- 7 監督は、フリーゾーン内ならば一時的にベンチを離れて、コート上の選手に指示を与えても良い。ただし、サーブ許可の吹笛後は、速やかにベンチに着席し、ラリー中は座っておかなければならない。また、記録席に最も近い席に着席すること。
※みだりに監督が立ち上がったたりする行為を許容するものではない。過度に目的から逸脱してはならない。
監督を含めベンチスタッフが自然発生的に喜びを表す表現として偶発的に立ち上がったたりする行為は許容範囲である。しかし毎回のよう立ち上がったたり、あるいはベンチから数歩前に出たりする行為はルール違反である。
監督がコート上の選手とハイタッチをしたり、跳んだり跳ねたり、相手を威嚇する行為はルール違反である。
- 8 1セットにつき12回までの選手交代が認められる。
ラリー中は、交代競技者はベンチに着席しているか、ウォームアップエリアに位置していること
2ndレフェリーは記録を確認し、11回目と12回目の選手交代を1stレフェリー及び監督に通告する。
- 9 レフェリーに対する質問はゲームキャプテンのみに認められる権利である
要求する権利のない者が要求した時など、タイムアウト及び競技者交代時の不当な要求は拒否される
またプレーに影響を及ぼしたり、同一試合中に同一チームの競技参加者が不当な要求を繰り返したりしたときはそのチームを試合の遅延として処置する
- 10 ユニフォームからはみ出したアンダーウェアは禁止する
- 11 反スポーツマン的の行為や言動に対しては厳正に処理する。(退場・失格)
- 12 髪の毛がネットに触れた場合、からみついたり等しない限り、反則としない
- 13 全試合、ワンボールシステムで試合を行う。ボールデッド時は、ボールを速やかに相手チームのサーバーに送ること。
- 14 試合の継続が危険な状況であるとレフェリーが判断した場合は、ラリーをノーカウントとする。
※隣のコートよりボール・選手が試合をするコートに侵入した。ネット際でなんらかの事情で選手が負傷した場合など
- 15 競技者が負傷して例外的な選手交代をした場合、負傷した競技者は、その試合に復帰することはできない。
- 16 試合中、コート内の選手は、床の汗を自分達で拭き取ること。必要に応じレフェリーにてモップの使用を許可する。
※汗によるボールの交換はその都度審判に申し出ること。

<レフェリーについて>

- 1 予選リーグ及び決勝トーナメントの審判員配置については、抽選会後周知致します。
※公認審判資格(C級・B級)を持つ方は、二日目以降のご協力をお願い致します
補助員についてはユニフォームでは行わないこと
- 2 1st・2nd・記録員はサービスオーダーの確認に注意を払う
- 3 1stレフェリーは試合の最終決定者である
但し、1stレフェリーは判定や取扱いの疑惑について、レフェリーの判断でコントローラー/審判長/副審判長の意見を聞くことを許可する

お願い

小連役員も、その多くがそれぞれのチームを抱えながら頑張っております。
ぜひ、各チームスタッフは大会運営のご協力をお願いします